

地域包括ケア取組状況について

生駒市



1 生駒市の現状について

基本情報 (H28.4.1)	
人口	120,835人
第1号被保険者数	31,220人
65～74歳	18,040人
75歳以上	13,180人
高齢化率	25.8%
ひとり暮らし高齢者数	3,668人

※ひとり暮らし高齢者調査は、平成28年2月結果
 ◆日常生活圏域は10圏域
 地域包括支援センターは6箇所設置（委託）

要介護認定者数 (H28.4.1)
 (第1号被保険者)

要支援1	485人
要支援2	710人
要介護1	894人
要介護2	893人
要介護3	614人
要介護4	582人
要介護5	426人
計	4,604人
認定率	14.7%

要介護認定者数の推移
 (第1号被保険者)

年度	要介護認定率 (%)
H25年	15.6
H26年	15.9
H27年	15.6
H28年	14.7

低減

<生駒市特徴>

- ・奈良県北西部に位置し、京都・大阪に囲まれた近畿のほぼ中央にあり、南北に細長い形状で、面積は53.15km²。
- ・江戸時代に創建された生駒聖天・宝山寺の門前町と発展し、現在は大阪のベッドタウンとして栄える。
- ・大都市隣接の利便性を活かし、低層住宅を中心とした質の高い住宅都市として、発展。

2 H28全体構想策定・構成要素充実に向けて実施している取組について

(1) 取組内容

【全体構想策定】

1 ロードマップ（全体構想）の策定

- 委託業者選定に当たり、プロポーザルを実施（受託者：NTTデータ経営研究所）
- 単なる計画策定で終わらせるのではなく、現状把握・分析や検証に力を入れ、生駒市版地域包括ケアシステムの構築を目指す。
- 分析内容
 - ・給付実績分析、6期計画とのギャップ分析、介護需要推計、提供体制とのギャップ把握
 - ・生活支援体制整備に関するアンケート、認知症に関するアンケート等調査結果の分析
 - ・これまでの介護予防事業によって得られた知見や調査結果に基づき、将来の需要推計と現状とのギャップを把握
- 分析データ（業者への提出データ）
 - ・要介護・要支援認定者数（H22.10～H28.9）
 - ・介護保険サービス利用実績（H22～H28）
 - ・生駒市内サービス事業所一覧(H12～H28)
 - ・町別疾病状況（H27。KDBシステム抽出）
 - ・第6期介護保険事業計画策定のためのアンケート調査報告書
 - ・生駒市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
 - ・第2期地域福祉計画本編
 - ・生駒市生活支援体制整備報告書
 - ・総合事業利用実績（H28）
 - ・介護予防事業対象者把握事業報告書（H27）
 - ・自治会活動に関するアンケート調査報告書（H26.2.2）
 - ・各団体資料（あいさつタウン、やまびこネットワーク、あすか野支え合うまちづくりの会
鹿ノ台いきいき街づくりの会）

2 H28全体構想策定・構成要素充実に向けて実施している取組について

(1) 取組内容

【全体構想策定】

2 地域包括ケアシンポジウムの開催 (H28.12.11)

→市民にまだまだあまり浸透していない「地域包括ケア」の普及・啓発。
 生駒市の地域包括ケアの構築に向け、キックオフ的な役割を果たした。
 来場者に対し、地域包括ケア構築に向けたアンケートを実施

- 基調講演：慶應義塾大学大学院 田中滋教授
- パネルディスカッション
 コーディネーター：服部真治氏 (元厚生労働省老健局課長補佐)
 パネリスト：市内の医療・介護関係者、関係団体代表者
- 入場者：412人 (事前申込制。満員御礼)



- 住民ボランティアが受付・会場への誘導に参画
- 介護予防ブース設置
 (いきいき百歳体操体験・認知症テスト・血圧測定・介護予防教室の紹介)

生駒市
地域包括ケアシンポジウム
 住み慣れた地域で、自分らしく暮らし
 続けることを目指して

日時 H28.12.11 日
 13:30～16:30 (13時開場)
 定員 440人(申込先着順・入場無料)
 会場 北コミュニティセンター
 ISTAはばたきばばたきホール
 ※事前にFAXor郵送で申し込み要

13:30～14:30 基調講演
 『地域包括ケアシステムとは
 何か、構築のために私たち
 は何をすべきか』
 田中 滋 氏
 慶応義塾大学大学院経営管理研究科
 名誉教授
 地域包括ケア研究会産長

14:30～14:50 講演
 『生駒市の取り組みについて』
 小紫 雅史 (生駒市長)

15:00～16:30 パネルディスカッション
 市内の医療・介護関係者や関係団体(社)に集える
 『超高齢社会に向けて生駒市で取り組む
 こと』

コーディネーター
 服部 真治 氏
 (元厚生労働省老健局課長補佐)
 慶応義塾大学大学院経営管理研究科
 名誉教授
 地域包括ケア研究会産長

パネリスト (順不同)
 山口 精二 氏 (一般社団法人生駒市福祉協会代表理事)
 江村 秀孝 氏 (社会福祉法人生駒市福祉会理事)
 林 忠弘 氏 (社会福祉法人生駒市福祉会理事)
 藤田 定子 氏 (生駒市自治会連合会代表理事)
 谷中 雅紀 氏 (生駒市民生・児童福祉委員会代表理事)
 藤原 真子 氏 (生駒市健康づくり推進員連絡協議会代表理事)
 佐々木 実子 氏 (生駒市高齢者福祉センター代表理事)
 小川 雅史 (生駒市長)

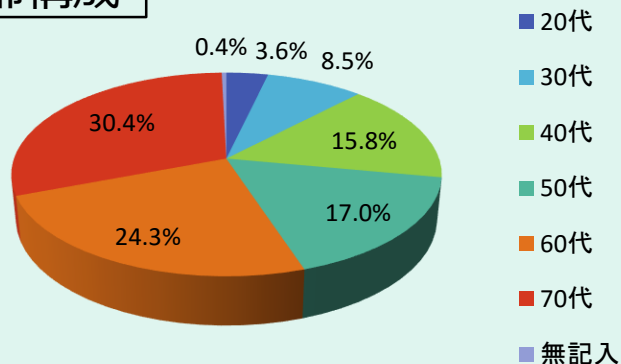
2 H28全体構想策定・構成要素充実に向けて実施している取組について

(1) 取組内容

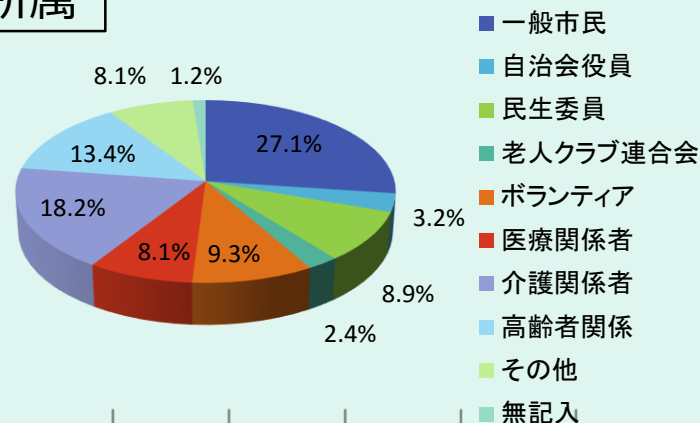
【全体構想策定】

● シンポジウム来場者アンケート結果（抜粋）

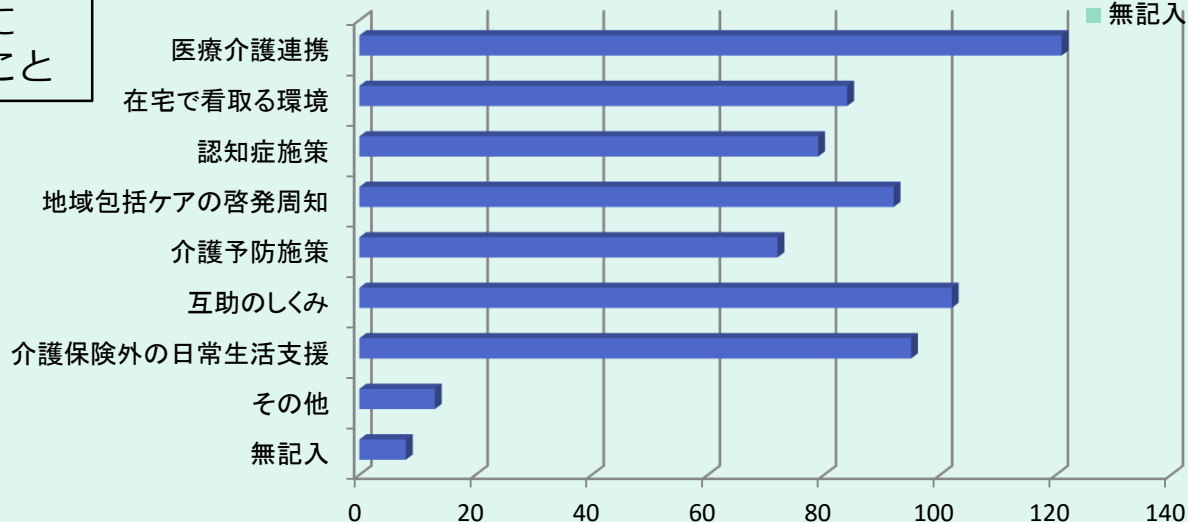
年齢構成



所属



地域包括ケアの構築に向け重点を置くべきこと



2 H28全体構想策定・構成要素充実に向けて実施している取組について


(1) 取組内容

【全体構想策定】

●シンポジウム来場者アンケート結果（抜粋）

取り組んで欲しいこと

- ・ 医師との連携、医師との垣根が低くなるような取組をしてほしい。
- ・ 会食サロンのような手作りの食事を中心にしたサロンを増やしてほしい。
- ・ 在宅医療の環境を充実してほしい。 ・ 在宅看取りの実現。そのための支援体制の確立。
- ・ もっと若い世代の市民に聞いてほしいと思った。子育てに一生懸命な中で親の介護が降りかかる。
- ・ 地域の協力、市民への認識を図るべくアピールを強めてほしい。
- ・ 病気になっても高齢になっても認知症になっても、笑顔で暮らし続けることのできる生駒市の構築。
- ・ フォーマル、インフォーマルの全てをつくして高齢者を支える姿勢を持って臨んでほしい。 などなど



多くの参加者から
熱いご意見をい
ただきました

その他気付いたこと

- ・ 市全域と共に自治会（小学校区）毎に開催することを望みます。
- ・ 団塊ジュニアの私たち世代も今から真剣に考えていきたいと思います。
- ・ 地域づくりのヒントをもらった。
- ・ 満員の会場を見て、市民の関心が高いことが分かりうれしく思った。
- ・ 地域が元気で、安心して暮らすため、とてもよい機会でした。
- ・ サロンの存在は知っていましたが、素晴らしさに気付きました。
- ・ 生駒市の高齢化の数値に驚いた。これから益々地域互助の重要性を感じる。
- ・ 自立するためにも介護予防をすすめる必要性を感じた。 などなど

2 H28全体構想策定・構成要素充実に向けて実施している取組について

(1) 取組内容

【構成要素充実】

1 まちかど保健室の開設 (H28.11)

→高齢化率の高い地域において、気軽に立ち寄り介護や健康の相談ができる「まちかど保健室」を設置。認知症予防や介護予防の取組を実践するとともに、交流・相談スペースを確保。

- 東京都練馬区「まちかどケアカフェこぶし」視察 (H28.11.8)
- 新たな介護予防教室の展開
いきいき百歳体操、保健師による定期的な健康講座、音楽療法等
- 地域の利用者の中から認知症カフェ立ち上げの動きあり。
- 住民主体の介護予防教室展開の拠点地候補として、地域住民を触発



2 認知症に関する多職種連携研修の開催 (H29.2.19)

→認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるため、医療・介護の更なる連携強化(55人参加)

- 講演：九州保健福祉大学 小川敬之教授
- 多職種を交えてのグループディスカッション

3 認知症ケアパス・チラシの作成 (H29.2発行)

→医療介護連携ネットワーク協議会の部会である「認知症対策部会」で議論。



4 「認知症支え隊」の養成 (H29.3)

→本人や家族のちょっとした支えとなる人の養成。2月15日号の広報にて募集・3月に養成研修開催

2 H28全体構想策定・構成要素充実に向けて実施している取組について

(2) 全体構想策定・構成要素充実にあたり工夫している点

【全体構想策定】

- ・計画策定に当たり、現状把握・分析や検証に力を入れている。
- ・単なる計画策定で終わらせるのではなく、キックオフ的な役割を果たすシンポジウムを開催し、「地域包括ケアシステム」の構築に市民を巻き込む。

【構成要素充実】

- ・住民主体を意識し、今後も継続して実施できるような取組のきっかけ作り。
- ・既存の介護予防拠点施設の有効活用。地域と共に介護予防事業を広く展開。

(3) 取組実施における課題・困難であった点・反省点

- ・補正予算の議決が9月議会となったため、実質半年間での事業実施。
- ・全体構想策定における委託業者の選定に当たりプロポーザルを実施したが、1度目の公告には応募なし（2度目の公告で2社の応募）。
- ・シンポジウムの名称。「地域包括ケア」が一般的でなく、予想より申込者の出足が鈍かった。
- ・通常業務を実施しながら、詳細な資料を収集し、提供することに時間を費やした。

3 部局横断的検討体制（地域包括ケア推進会議）について

（1）地域包括ケア推進会議の構成メンバー

- 副市長
 - 市長公室長、総務部長、地域活力創生部長、市民部長、福祉健康部長、建設部長、都市整備部長、教育振興部長、生涯学習部長、消防長
 - 福祉健康部次長、病院事業推進課長、健康課長（医療分野・予防分野）
 - 介護保険課長、高齢施策課長、障がい福祉課長、保護課長（介護分野・予防分野）
 - 政策企画推進課長、防災安全課長、市民活動推進課長、いこまの魅力創造課長、経済振興課長、環境保全課長、教育指導課長、生涯学習課長、スポーツ振興課長、消防本部総務課長（生活支援分野）
 - 営繕課長、建築課長（住まい分野）
- 計 30 名

（2）地域包括ケア推進会議における検討内容・立ち上げに当たって苦労した点

【地域包括ケア推進会議の目指す姿】

地域包括ケアシステムの構築に向け、各部・各課の足並みをそろえ、推進体制をより確実にする

- ・ 多様な主体が活躍するまちの姿を共有
- ・ 部課横断的な協働・連携を図り、効率的で効果的な住民活動支援につなぐ。

4 平成28年度スケジュール（※平成29年2月末時点）

- 11月
- まちかど保健室開設
 - ロードマップ(全体構想)策定支援業務委託業者選定に係るプロポーザル

- 12月
- 地域包括ケアシンポジウム

- 1月
- 第1回地域包括ケア推進会議

- 2月
- 認知症に関する多職種連携研修会
 - 認知症ケアパス発行
 - 第2回地域包括ケア推進会議

- 3月
- 「認知症支え隊」養成講座(全4回開催)
 - 第3回地域包括ケア推進会議
 - 地域包括ケアシステム構築に向けたロードマップ策定

5 今後の展開方針について

○今年度に実施した取組の次年度の展開方針

- ・ロードマップ
→分析データの活用。第7期介護保険事業計画への反映。
6期計画では地域包括ケアについてざっくりとしか記載しかできなかったが、今回の全体構想を活かし、実現可能なものを具体的に明記することが可能となる。
- ・まちかど保健室
→今年度の実績を反映し、メニューの再検討。
地域に活用してもらい、2層の協議体が活用できるスペースとなることを目指す。
- ・認知症ケアパス
→多職種連携研修をきっかけとして、専門職用のケアパスの作成
現在作成中の事例集とともに、支援困難ケースを紐解くマニュアルとして活用。
- ・認知症支え隊
→今年度養成し、H29年度以降に事業化。
有償ボランティアとしての仕組みを作り、委託予定。
介護保険とインフォーマル資源の隙間を埋める。